

| | | | | |
|------------------------|--|---------|---|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 国際社会と日本 (2 単位) | | 3. 科目番号 | GELA1334 |
| 2. 授業担当教員 | 加藤 由香子 | | | |
| 4. 授業形態 | 講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション | 5. 開講学期 | 秋期 | |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 特になし | | | |
| 7. 講義概要 | 「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。 | | | |
| 8. 学習目標 | 1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。 | | | |
| 9. アサインメント(宿題)及びレポート課題 | 1. 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておく。 事前学習・事後学習の確認として、適宜口頭発表や小テストを実施する。 2. 第7回から第11回の学習内容と資料及び自身の経験からレポートを作成して提出する。 詳細については、講義内で指示する。 | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 なし。資料は適宜講義で配付する。 【参考書】 マンフレッド・B.スティーガー著『新版 グローバリゼーション <1冊でわかる>』岩波書店、2010。 「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会編、みなみななみ著『まんがクラスメイトは外国人 課題編 第2版』明石書店、2022。 樽本英樹著『国際社会学・超入門：移民問題から考える社会学』有斐閣、2023。 その他講義内で適宜紹介する。 | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。 ○評定の方法 成績評価の規準1～3についての達成度を以下の方法により評価する。 ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(ディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、試験・レポートから評価する。(40%) | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 各回の事前学習と事後学習を必ず達成したうえで、授業に臨むこと。 配付資料は熟読し、授業に持参すること。 国際社会での活動や国際交流に興味を持っていることが望ましい。 講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすること。 自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 初回の講義内で通知する。 | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | |
| 第1回 | イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方 | 事前学習 | シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく。 | |
| | | 事後学習 | 講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。 | |
| 第2回 | グローバリゼーションの定義と歴史 | 事前学習 | グローバリゼーションについて知っていることをまとめておく。 | |
| | | 事後学習 | 講義内容を振り返り、今後のテーマ内容を確認しておく。 | |
| 第3回 | グローバル化の経済的次元 | 事前学習 | 世界経済の動向について調べておく。 | |
| | | 事後学習 | 経済のグローバル化がもたらす光と影について身近な事例を考えておく。 | |
| 第4回 | グローバル化の政治的次元 | 事前学習 | 国連など国際機構について整理しておく。 | |
| | | 事後学習 | 講義を振り返り、グローバル・ガバナンスにおける多様なアクターについてまとめておく。 | |
| 第5回 | グローバル化の文化的次元 | 事前学習 | トランスナショナルな「ポピュラー文化」にはどのようなものがあるか、考えておく。 | |
| | | 事後学習 | 文化のグローバル化における光と影について考えておく。 | |
| 第6回 | 第2回から第5回の振り返り(ディスカッション) | 事前学習 | 第2回から第5回の学習を振り返り、ディスカッションの準備をする。 | |
| | | 事後学習 | 講義で学んだことをノートにまとめておく。 | |

| | | | |
|------|--------------------------|------|---|
| 第7回 | グローバルな正義論と国際人権レジーム | 事前学習 | 人道的介入について調べておく。 |
| | | 事後学習 | 人道の義務を広めるために何ができるか考えておく。 |
| 第8回 | 人の移動のグローバル化 ①多文化主義と多文化共生 | 事前学習 | 日本に在住する外国人について整理しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本の「多文化共生」における問題点について考えておく。 |
| 第9回 | 人の移動のグローバル化 ②シティズンシップと国籍 | 事前学習 | 帰化に必要な要件と手続きについて調べておく。 |
| | | 事後学習 | なぜ重国籍に寛容な国と不寛容な国があるのか考えておく。 |
| 第10回 | SDGs とジェンダー平等 | 事前学習 | SDGs について調べておく。 |
| | | 事後学習 | 日本のジェンダー平等のためにすべきことは何か考えておく。 |
| 第11回 | 気候変動と環境問題 | 事前学習 | 気候変動に関する COP で何が話し合われているのか調べておく。 |
| | | 事後学習 | 環境のために今後すべきことについて考えておく。 |
| 第12回 | 口頭発表とディスカッション | 事前学習 | 第7回から第11回の学習を振り返り、発表資料を作成し、発表及びディスカッションの準備しておく。 |
| | | 事後学習 | 講義で学んだことをノートにまとめレポートを作成する。 |
| 第13回 | 領土問題 | 事前学習 | 日本の領土問題について調べておく。 |
| | | 事後学習 | 講義で学んだことをノートにまとめておく。 |
| 第14回 | 日本の開発援助 | 事前学習 | ODA について調べ、まとめておく。 |
| | | 事後学習 | なぜ有償援助と無償援助があるのか考えておく。 |
| 第15回 | 国際社会の一員として (ディスカッション) | 事前学習 | これまでの講義を振り返り、国際社会の一員として何ができるか考え、ノートにまとめておく。 |
| | | 事後学習 | ノートや資料を整理し、試験に備える。 |
| 期末試験 | | | |